

# 徴古館って なんだろう？



「徴古館」は、1927年10月、直正公銅像の南側に開館した佐賀県内初の博物館です。



正公銅像、佐賀図書館に続いて、大正12年(1923)には銅像園の一画、弘道館跡地の東端にあたる位置に「弘道館記念碑」が建立されました。建立は有志の団体「弘道館記念会」によるもので、題字は12代鍋島直映公の手になります。さらに同会は「弘道館記念館」の建設を計画しますが、昭和2年(1927)直映公による徴古館の建設により目的は叶えられたとして同会は解散し、記念碑は徴古館に寄附されました。

徴古館の開館式で当時の大島佐賀県知事は「官民一体となり徴古館を活用して佐賀発展の基盤としたい」と述べ、野口佐賀市長は「郷土の歴史を伝えるのは市長の責務。徴古館の充実は郷土に多大な効果をもたらす」と述べました\*。松原の地で歴史を伝えることに市民や各団体、鍋島家や行政が共に期待を寄せる気運の中でこそ、県内初の博物館「徴古館」は誕生したのです。

徴古館では県内各地の各家から広く歴史資料が出品され、肥前史談会など市民文化団体の活動拠点にもなりました。



現在も徴古館の隣に建つ弘道館記念碑

\*「旧佐賀藩弘道館記念誌」第二輯、弘道館記念会、昭和3年



開館式の徴古館前。中央が創設者の12代鍋島直映公 昭和2年10月撮影  
鍋島報効会(徴古館)所蔵



開館当時の徴古館  
鍋島報効会(徴古館)所蔵